



ピアノ

る。チューリッヒ音楽院及び
大学卒業。

ルに学ぶ。恩師はL.シャイヒ
クセンフェルト、ルドルフ・

大学音楽学科で後進の指導に
ンチエルト、室内楽の分野で、
広く演奏活動している。

石村雅子／ソプラノ

東京音楽学校（現芸大）卒業。

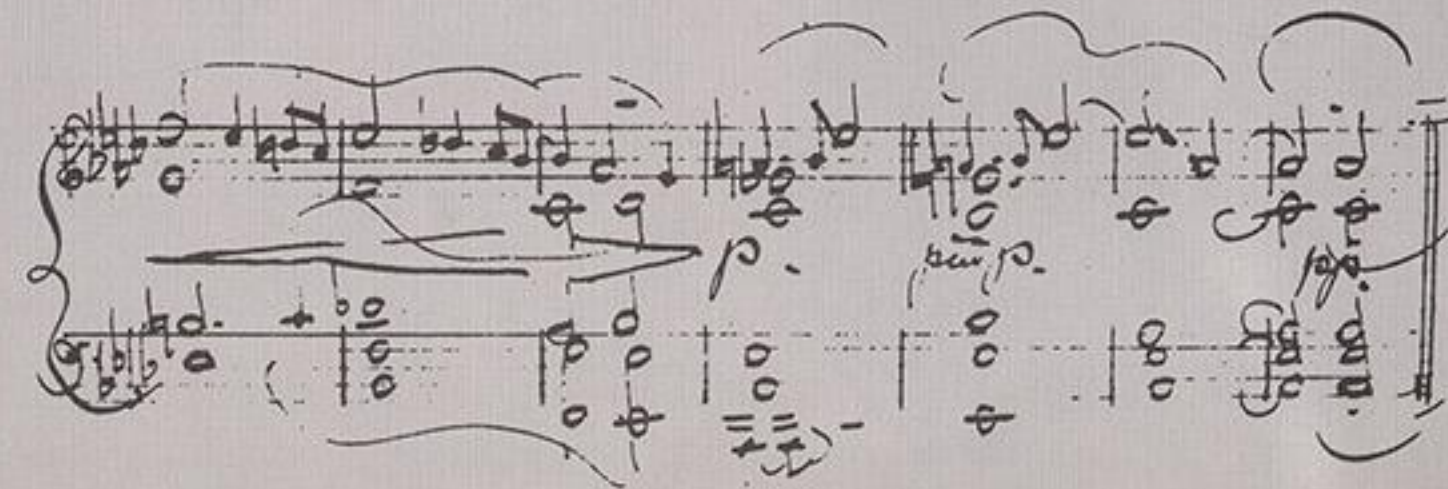
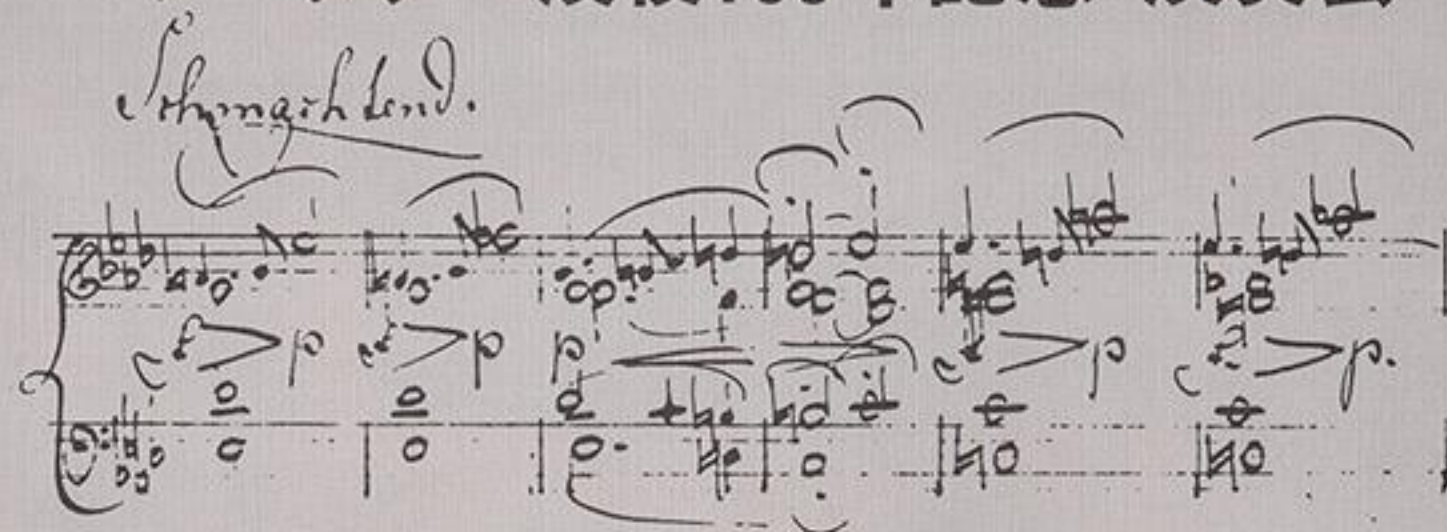
米国レヴァノン・ヴァレイカレッジ留学。

オルガ・カラスロヴァ、木下保岡氏に師事。
オペラ、歌曲、オラトリオ等の演奏会に多
数出演。

現在、同志社女子大学学芸学部音楽学科教
授。日伊コンクール、全日本学生コンク
ール西日本地区審査員。

ZUM RICHARD WAGNER-JAHR 1983

ワーグナー没後100年記念 演奏会



Porazzi Melodie ポラッツィ メロディ

プログラム

リヒャルト ワーグナー
Richard Wagner

フランツ リスト
Franz Liszt

ワーグナー/リスト
Wagner-Liszt

ポラッツィ メロディ
Porazzi-Melodie

悲しみのゴンドラ 第2番
Die Trauer-Gondel Nr. 2

〈リエンツィ〉のモティーフによる小幻想曲
Phantasiestück über Motive aus Rienzi

Motto: „Santo spirito cavaliere”

ワーグナー/リスト
Wagner-Liszt

〈さまよえるオランダ人〉より
Der fliegende Holländer

ワーグナー/リスト
Wagner-Liszt

〈タンホイザー〉より 序曲 コンサートバラフレーズ
Ouvertüre zu Tannhäuser Konzertparaphrase

ワーグナー/リスト
Wagner-Liszt

〈トリスタンとイゾルデ〉より 最後のシーン、イゾルデの愛の死
Isoldens Liebestod Schluss-Szene aus Tristan und Isolde

リヒャルト ワーグナー
Richard Wagner

ポラッツィ メロディ
Porazzi-Melodie

アルバムソナタ (マティルデ・ヴェーゼンドンクに献呈)
Eine Sonate für das Album von Frau Mathilde Wesendonk

Motto: „Wisst ihr wie das wird?”

ヴェーゼンドンクの詩による女声のための歌曲集

Wesendonk-Lieder für eine Frauenstimme und Klavier nach Gedichten von Mathilde Wesendonk

Aug. 246/1
1899. 88.
Lieder Museum



リヒャルト・フランク/ピアノ

スイス・チューリッヒに生まれる。チューリッヒ音楽院及び
西ドイツフライブルグ国立音楽大学卒業。
その後米国ジュリアードスクールに学ぶ。恩師はL. シャイヒ
ェット、エディット・ヒット＝アクセンフェルト、ルドルフ・
フィルクスナー各氏。
昭和54年来日以来、同志社女子大学音楽学科で後進の指導に
あたる傍わら、リサイタル、コンチエルト、室内楽の分野で、
現在スイスと関西を中心に、幅広く演奏活動している。

石村雅子/ピアノ

東京音楽学校
米国レヴァノ
オルガ・カラ
オペラ、歌曲、
数出演。
現在、同志社
教授。日伊コン
ル西日本地区

■1983年5月18日(水)7時＝京都府立文化芸術会館

Mitwoch, den 18. Mai 1983, 19:00 ● Kyoto Furitsu Bunka Geijutsu Kaikan Hall

後援：同志社女子大学学芸学部音楽学科 / 京都ドイツ文化センター / スイス総領事館

Unterstützung: Doshisha Womens College, Goethe-Institut Kyoto, Schweizerisches General Konsulat Osaka

マネージメント・エラート音楽事務所 〒600

ヴェーゼンドルクの五つの詩 ワーグナー曲

①天 使

その昔、私がおきなかったころ、
たびたび聞いたことがあります。
地上の太陽を、天上の神々しい喜びと
とりかえてくれる天使のおはなしを——

不安におののくひとつの心が
やつれ果てて世間から隠れるとき、
その心が、静かに血を流しながら
深の湧水の中で死んでゆくときとすると、

その心の熱烈な祈りが、ただひたすら
生からの解放を願ってやまないとき、
そんなとき、その天使が舞いおりてきて
やさしくその心を天上に高める——

そうです。私にもひとりの天使が天下ってきました。
そして、光りかがやく翼ののせて
すべての苦悩から連れ、私の魂を
いま、天上に導いてゆくのです。

②ふまれ

存たかくさめいて進む時間の幸福よ、
お前、永遠を計算するものよ、
この地球をとりまいて
広大な宇宙の中の光りかがやく領域よ、
有限を超えて創造されたものよ、歩みを止めよ
生成は、私にはもう死出です！

自らを抑制するがいい、生み出す力よ、
永遠に創り続ける最初の構想力よ！
呼吸をとどめ、衝動をおさえて、
一秒間だけでも口をとぎすがいい！
抑えあがる熱情よ、衝動を鎮につなげ、
尽きることのない欲望の日々よ、終れ！

この上なく幸福な、甘美な忘却の中で
私は一切の歡喜の衝動を測りたいのです！
眼が涙の淵の中から歡喜にもえて歓み、

魂が別魂の中にすっぽりと沈みこむとき、
人間が別の人間の中に自分を再発見し、
一切の希望が成就したと知るとき、
いぶかしい沈黙の中に静けとどきされ、
もはや心の中にひととつなぐものがないう時、
その時、人間は永遠のものの軌跡に気づき、
おん身の謎を解くのです。聖なる自然よ！



Villa Wesendonk
ヴェーゼンドルク邸、チューリッヒ郊外



Mathilde Wesendonk
マティルデ ヴェーゼンドルク 1860

③蓮室で

高いアーチを描いている葉の冠よ、
エメラルドの天蓋よ、
涼い気候風土の子よ、いっておくれ、
なぜお前たちは眠っているのです？

お前たちはひっそりと枝を垂れて
大気の中にしるしを置き、
苦悩のもののいれぬ面影として
甘い芳香をたちのぼらせています。

あこがれの熱い渴望のままに
お前たちはひろびろと腕をひろげ、
欲望にとらえられて荒涼たる空の
むなしい軌跡をかきだくのです。

そう、哀れな植物よ、私は知っています、
私たちがおなじ運命を分かち合っているのを——
まぶしい光に照らされてはいても
私たちの旅路はここではないのです！

太陽が、昼間のむなしいかがやきを
消し去るのは、なんと喜ばしいことでしょう。
そして、本当に苦しむ者は
沈黙の闇の中にくるまるのです。

あたりが静かになり、小さな動きが
おすおすと暗い室内を渡り——
私は見ます、葉の緑色のへりに
ひっそりとゆらぐ重たいしるしを。

④青 楓

太陽よ、夕べごとにお前は
きれいな顔をして寝て、
海の鏡の中につかりながら
早すぎる死にとらえられるときに、

だが、お前は昔ながらに輝くく輝く、
この陰鬱な世界の栄光よ、
朝になると、お前はあらたに目ざめる、
誇りたかい勝利の勇気のように！

ああ、飲いたりするいおれがあるでしょうか、
私の心よ、なぜ悲しそうにしているのです、
太陽さえ力をなくしなければならぬ、
沈んで行かなければならぬからといって？

死はつねに生だけを生み、
苦悩はつねに歡喜だけを与えるというのに、
お前、私はどんなに感謝することでしょう、
そんな苦悩を自然が私に与えてくれたことに！

⑤夢

いってごらん、どんな不思議な夢が
むなしい泡沫のように
不毛の虚無の中に滅び去ることなく、
私の心をとらえて離さないのかを？

夢は、あらゆる時間には、

あらゆる日々に、一瞥美しく花ひらき、
天上の知らせを告げて
至福に胸の中にしみ通るのです！

夢は、神々しく放射する光のように
魂の中に沈みこんで、
そこである永遠の絵を描きます、
一切の忘却と、遺恨の絵を！

夢は、春の太陽がくちづけして
雪の下から呼び出した花のように、
悪いもかけなかった歡喜にもえて
新しい日を喜び迎えます——

夢は生い茂り、夢は花咲き、
夢みつつ芳香をまき散らし、
やさしくあなたの胸で燃え尽きて
やがて墓の中に埋もれるのです。

プログラム解説

ワーグナーとボラツィメロディ

コジマ・ワーグナーの日記より

——1882年3月28日、パレルモ、ボラツィ別荘にて：「私が床に就く前に、リヒャルトはボラツィメロディを使って

光景を示し、私は至福の喜びに満ちて就寝した。」

——1883年2月10日、ベニス、ペンドラミンの館にて：「リヒャルトは彼の母の夢を見た。」

——同年2月11日：「リヒャルトはウィルヘルム・ネシュローダー・ドゥプリアンを夢に見た、又マティルデ・ヴェーゼン
女性達が皆、私の眼前より立ち去って行く。」と告げた、そこでコジマは「一体、私のことを気付かせてくれたかと
ている。イゾルデなしの世界はありえない。」と答えた。

——2月12日夜：ブッカーの童話より〈オンディーヌ〉を朗読した。そしてボラツィメロディをピアノで弾き、終いて
歌を弾いた。

——2月13日〈人間性に占める女性的役割〉について著述。この最後の稿で彼は婦人解放について肯定的に顧慮している。
ワーグナーの人生において、女性という要素は、特に意味深い力を持っていたようにうかがえる。彼自身、徹頭徹尾
忠実でかつ聡明、献身的なタイプの女性を必要としたのであろう。そのことは彼の伝記を通して如実にうかがえる。伴侶
めに、深い理解と絶大な支援を送ることを惜んで止まなかった。ワーグナーの女性評価は、彼の作品にはいり込んでいる
タ、エリザベート、イゾルデ、ブリュンヒルデらに具像化されている。彼の筆による最も内面から出た女性への感謝の
なかろうか？

ワーグナーとリスト

オペラ〈リエンツィ〉を通してリストはワーグナーの芸術に出会い、評価した。〈タンホイザー〉を習作中、この二
ばれた友情関係が始まった。リストからワーグナーに当てた短かい手紙がそのことを物語っている。

「尊敬する友よ、たとえ君が私に道理にかなったことをしなかったとしても、君はいつでもそれで良いんだ。気分次第で
ら、いつもあなたのそばにいる、忠実なフランシスコより。」1882年末にリストは、ベニスにワーグナーを訪ねた。この

この作品について、リストはある手紙で次のように書いている。:

「私はまるで彼の死を予感するかの如く、ベニスでワーグナーの没する6週間前にこのエレジーを作曲した。」

床に就く前に、リヒャルトはブラッツイメロディを使って即興演奏した。そのメロディは、新に、私の魂に神秘的な

リヒャルトは彼の母の夢を見た。」

「ドゥブリアンを夢に見た。又マティルデ・ヴェーゼンドクから手紙を受け取る夢を見たとも言い、知っている

そこでコジマは「一体、私のことを気付かせてくれたかどうか？」問うと「私の世界には、ただイゾルデだけが占め

た。そしてブラッツイメロディをピアノで弾き、続いて〈ニーベルングの指輪〉より〈ラインの乙女たちの悲嘆の

の最後の稿で彼は婦人解放について肯定的に顧慮している。この日の午後亡くなる。

い力を持っていたようにうかがえる。彼自身、微頭微尾男性的性格の強い人物で、そのためバランスをとる上でも、

う。そのことは彼の伝記を通して如実にうかがえる。伴侶ばかりか、親戚、知人の女性も皆こぞって、彼の芸術のた

た。ワーグナーの女性評価は、彼の作品にはいり込んでいる。それらはオペラの中で、彼の理想の女性像として、セン

れている。彼の筆による最も内面から出た女性への感謝の表明は、しかしながらこの短かいブラッツイメロディでは

は出会い、評価した。〈タンホイザー〉を習作中、この二人はより近づき、そして音楽史上、他に類を見ない、固く結

いかい手紙がそのことを物語っている。

ったとしても、君はいつでもそれで良いんだ。気分次第で小言を言うが良い。そんな事で私は戸惑ったりはしないか

1882年末にリストは、ベニスにワーグナーを訪ねた。この地でリストの〈悲しみのゴンドラ〉の第1版が作曲された。

いる。」

の没する6週間前にこのエレジーを作曲した。」

ワーグナーとチューリッヒ

1849年より1858年まで、ワーグナーは政治的亡命者として、チューリッヒに滞在した。ワーグナーはこの時代をふりかえって、マティルデ・ヴェーゼンドクに次のように書いている。「私には、今新しい何かを探す必要がないということが、かなりはっきりしている。それは、チューリッヒの開花期に充分芽が吹き出したから、必要とあらば、いつもその十分な貯えの中から、芽を摘めばよいし、花を咲かせるのも、そういうわけで世話がたやすい。」

このチューリッヒ「開花期」にワーグナーの新しい芸術意識は、重要な理論的著作物となってあらわれ、あるいは又チューリッヒに祝祭劇場を設立しようというアイデア、又〈指輪〉のテキストの完成と、その大部分を占める音楽の完成、〈ワルツィファル〉のスケッチ、〈トリスタンとイゾルデ〉等の仕事が行なわれた。この地においてワーグナーは、ヴェーゼンドク夫妻と知り合う。

チューリッヒの実業家で芸術愛好家でもあった彼らは、長年を通して、ワーグナーの後援者として大きな意味を持った。後にワーグナーは彼らについて回想している。「ヴェーゼンドク夫妻は私の希望をかなえ、かなりの快適さで私を迎え入れるよう心づかいして世話下さった最初の人物でした。」この相互の友情関係は、最初から音楽上の実りをもたらした。1853年ワーグナーがオットー・ヴェーゼンドクに出た手紙より：「私の新しい借金の件についてですが、尊敬と信頼の念を持って申し上げます。ひとまず本日古い方の借金をお支払いします、どうぞ奥様に同封のこのソナタをお渡し下さい。これは〈ローエングリン〉完成後初めての作品です。(あれからもう6年にもなります。)」

1857年にヴェーゼンドク夫妻は新築の邸宅に移り、隣接する旧館をワーグナーに「かくれ家」として、いつなりとお使い下さるよう提供した。〈トリスタンとイゾルデ〉作曲中に、隣人マティルデ・ヴェーゼンドクによる5つの詩に作曲した。数年後、彼はこの作品について次のように回想している。「この歌曲〈夢〉から〈トリスタンとイゾルデ〉の第2幕、夜のシーンの発想を思い付いた。私は誇らしい堂々とした歌よりこの曲の方が、はるかに気に入っている。」

(訳：英子 フランク・マノ)

ZUM RICHARD WAGNER-JAHR 1983

ワーグナー没後100年記念 演奏会



—プログラム—

ピアノのための編曲：リエンツィ、タンホイザー、トリスタンとイゾルデ

Klaviertranskriptionen zu Rienzi, Tannhäuser, Tristan und Isolde

アルバム ソナタ

Album-Sonate für Klavier

ヴェーゼンドルクの詩による歌曲集

Wesendonk-Lieder für eine Frauenstimme und Klavier



リヒャルト・フランク / ピアノ
Richard Frank / Klavier

スイス・チューリッヒに生まれる。チューリッヒ音楽院及び西ドイツ・フライブルク国立音楽大学卒業。Kunstlerisches Reifeprüfungszugang (芸術家試験合格証明書)を得る。エディット・ビヒト＝アクセンフェルト教授に師事。その後、米国、ジュリアードスクールに学ぶ。スイス、ドイツ、アメリカで演奏会に出演。昭和54年に来日以後、大阪、京都でリサイタル開催。又関西フィルハーモニーオーケストラとチャイコフスキーピアノ協奏曲No.1、サンサーンスNo.2を協演する等活躍中。又出身地チューリッヒでも定期的にリサイタルに出演し、昨年9月トーンハレホールでのリサイタルでは、ノイエチューリッヒツァイトング紙をはじめ、各紙から有望な若手ピアニストとして高く評価されている。現在同志社女子大学音楽学部音楽学科職任講師。



石村 雅子 / ソプラノ
Masako Ishimura / Sopran

東京音楽学校（現芸大）卒業。米国レヴァノン・ヴァレイカレッジ留学。オルカ・カラスロウ、木下保典氏に師事。オペラ、歌曲、オラトリオ等の演奏会に多数出演。

現在、同志社女子大学音楽学部音楽学科教授。日伊コンクール、全日本学生コンクール西日本地区審査員。

■1983年5月18日(水) 7時—京都府立文化芸術会館(上・河原町広小路 TEL 075(222)1046)

Mitwoch, den 18. Mai 1983, 19:00 ● Kyoto Funtsu Bunka Geijutsu Kaikan Hall

後援：同志社女子大学音楽学部音楽学科・京都ドイツ文化センター / スイス総領事館

Unterstützung: Doshisha Womens College, Goethe-Institut Kyoto, Schweizerisches General Konsulat Osaka

●入場料＝¥2,000.—

■マネージメント＝エラート音楽事務所 TEL 075(751)0617